

交通安全マップ作成活動の教育効果の検証 (2) —ヒヤリハットおよびキーワードによるマップ作成活動の比較検討—

大久保智生 (香川大学)

キーワード: 交通安全マップ, ヒヤリハット, キーワード

問題と目的

近年, 交通事故が社会問題となっており, 特に登下校中の子どもが犠牲になる交通事故はニュースなどで大きく取り上げられている。登下校中の交通事故を減少させるには小学生の歩行時を含めた交通安全意識を向上させる必要があり, 効果的な交通安全教育のコンテンツを開発し, 教育効果を検証していく必要がある。

効果的な交通安全教育のコンテンツとして, ヒヤリハットマップの作成活動が挙げられる。ヒヤリハットとは「事故が起これそうであったが, 幸いにも回避できた出来事」であり, このようなヒヤリハット発生地点を地図上に表示したものがヒヤリハットマップである (斎藤ら, 2014)。ヒヤリハットマップは多くの自治体で作成されており, 地域の交通安全対策に活用されている (増岡ら, 2007)。

また, ヒヤリハットマップに類似するマップの作成活動として, 地域安全マップ (小宮, 2005) がある。地域安全マップとは, 監視性と領域性の観点から「見えにくい」「入りやすい」といったキーワードによって地域を点検し, 「犯罪が起これやすい場所」を地図にかき出すものである (小宮, 2006)。地域安全マップではキーワードが重要になるが, この手法を応用すると, 交通安全のキーワードとしては, 「見通しが悪い」と「守られていない」が考えられる。本研究では, これら 2 つのマップ作成活動の教育効果について検証を行っている。

本研究では, ヒヤリハットマップとキーワードによるマップの作成活動が小学生の交通安全意識, 交通安全に関する能力に及ぼす影響について検討することを目的とする。

方 法

対象者と対象学級 小学校 5 年生の 3 学級計 101 名 (男子 50 名, 女子 51 名) を対象とした。3 学級のうち, ヒヤリハットマップ作成を行った学級をヒヤリハット群, キーワードによるマップ作成を行った学級をキーワード群, 授業を行わなかった学級を統制群とした。

質問紙 ①交通安全意識 大久保 (2020) の交通安全意識尺度を使用した。回答形式は 5 件法。

②交通安全に関する能力 濱本・平 (2008) の防

犯に関する能力尺度を参考にして, 交通安全に関する能力を測定する尺度を作成し, 使用した。回答形式は 4 件法。

マップ作成活動の流れ マップ作成活動は, ①質問紙の回答, ②事前学習, ③フィールドワーク, ④話し合い, ⑤発表会, ⑥まとめ, ⑦質問紙の回答の流れで行った。

倫理的配慮 実施に際して, 成績と関連がないことや外部に回答結果が漏れないこと, 回答結果は研究成果の発表にのみ使用されることを伝えることで, 倫理面への配慮を行った。

結果と考察

小学生の交通安全意識の検討 活動の実施前後の交通安全意識について検討するため, t 検定を行った。その結果, 「周囲への確認・注意」については, ヒヤリハット群 ($t=2.737$, $d=0.50$, $df=30$, $p<.05$) において, 活動の実施後が実施前よりも有意に得点が高かった。「思い込みによる油断の無さ」については, キーワード群 ($t=2.437$, $d=0.42$, $df=33$, $p<.05$) において, 活動の実施後が実施前よりも有意に得点が高かった。以上の結果から, ヒヤリハット群は「周囲への確認・注意」が, キーワード群は「思い込みによる油断の無さ」が活動の実施後に高くなることが明らかとなった。

小学生の交通安全に関する能力の検討 活動の実施前後の交通安全に関する能力について検討するため, t 検定を行った。その結果, 「被害防止能力」については, ヒヤリハット群 ($t=3.298$, $d=0.60$, $df=30$, $p<.01$) とキーワード群 ($t=2.298$, $d=0.49$, $df=31$, $p<.01$) において, 活動の実施後が実施前よりも有意に得点が高かった。「コミュニケーション能力」については, ヒヤリハット群 ($t=3.762$, $d=0.69$, $df=30$, $p<.01$) とキーワード群 ($t=2.560$, $d=0.45$, $df=33$, $p<.05$) において, 活動の実施後が実施前よりも有意に得点が高かった。「地域への愛着心」得点については, ヒヤリハット群 ($t=2.083$, $d=0.38$, $df=30$, $p<.05$) において, 活動の実施後が実施前よりも有意に得点が高かった。以上の結果から, ヒヤリハット群は, 「被害防止能力」, 「コミュニケーション能力」, 「地域への愛着心」が, キーワード群は, 「被害防止能力」, 「コミュニケーション能力」が活動の実施後に高くなることが明らかとなった。